



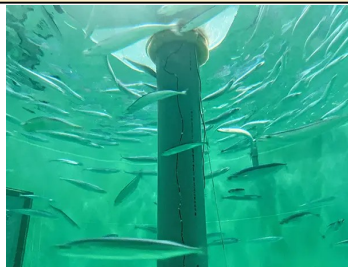
Yamaka Topics

夏季調査におけるアマエビの年齢別採捕尾数(尾/網)

調査年	1歳	2歳	3歳
2016年	67	412	44
2017年	135	257	380
2018年	111	354	322
2019年	110	118	54
2020年	70	282	102
2021年	14	182	117
2022年	367	79	205
2023年	455	447	126
2024年	11	270	190
2025年	15	41	413



マルハニチロ養殖技術開発センターで飼育されたサンマ



アマエビの分布量調査

調査船白山丸が金沢沖の水深 375m～500mの海域でアマエビ（ホッコクアカエビ）の分布調査を実施しました。採捕したアマエビの量や大きさから今後の資源状況を見るものです。2022年生まれ（3歳）は今回調査でも比較的多く採捕され、同年級群が漁獲対象に成長する2026年には良好な漁獲加入が期待できます。一方で1歳（2024年生まれ）および2歳（2023年生まれ）の採捕数は少なく、これらが漁獲対象に成長する2027年および2028年には漁獲加入は少ない可能性があります。

サンマの試験養殖に成功

今年は漁獲量が今のところ例年に比べ多いサンマ。これまで低迷が続き、価格も高騰していました。安定供給を目指すべく、近年は様々な魚種で養殖技術が確立されている中、マルハニチロが世界で初めてサンマの試験養殖に成功しました。2024年に既に出荷目安の100gをサイズにまで成長させることに成功。人工授精にも成功していました。今年はさらに事業化レベルに準じた飼育に成功したそうです。水温にもよりますが、出荷サイズに成長するまで稚魚段階から6カ月程度かかるそうです。完全養殖も見据え、サンマ養殖の事業化を目指します。

入荷状況



10、11月

甘エビ
◎ブリ
◎ガスエビ
ササカレイ
メギス
◎アオリイカ
アマダイ
バドコロ
ミズウオ
◎ベニズワイガニ



底引き網漁 9月、底引き網漁解禁から入荷がイマイチといった感じで推移しています。底引き網漁の漁獲が多い、輪島、珠洲の量がまとまっていないのが原因とか。出漁しても天候不良で引き返すこともあったそうです。また、水温が高く全般的に遅れて入荷するのでは。ブリも痩せています。金沢港、橋立港のアマエビは順調に入荷。アオリイカはまだ小型ですが徐々に型も大きくなります。ベニズワイは10月からベニ簗漁で本格入荷の予定。

●商品価格等は各担当者にお問い合わせください。